

学生オルガニストたちの声

溜池 紗奈 (商学部3年生)

皆さんはチャペルアワーに出席されたことはありますか？まだ出席されたことのない方は、ぜひ参加してみてください。私たちチャペルオルガニストは、このチャペルアワーで賛美歌の奏楽をしています。

私は入学するまで、関学にチャペルオルガニストや、チャペルアワーが存在することを知りませんでした。そして今までキリスト教や礼拝、賛美歌とも接する機会はなかったのです。そんな中で務まるのだろうかという不安もありましたが、せっかくだから関学でしかできないことをやってみたいと考え、チャペルオルガニストを志願しました。

チャペルでの奏楽のために、私たちは月2回のパイプオルガンのレッスンを受けて研鑽を積み重ねます。パイプオルガンは風をパイプに送り、空気を振動させて音を出す楽器です。初めてパイプオルガンの鍵盤で音を出した時、ピアノともエレクトーンとも違う音色が礼拝堂に響き、これがパイプオルガンか…荘厳な音とはまさにこのことか…！と圧倒されました。さらに、両手両足で演奏できるようになると、自分が奏でる音の響きや、まるでオーケストラのようなたくさんの音の重なり感動しました。特に足鍵盤は慣れるまで難しいですが、弾けるようになると、その分とても楽しくて、達成感があります。

チャペルオルガニストはこの関学で、学生時代にしかできない奉仕活動です。オルガンに触れ、チャペルアワーで奏楽し、演奏会に出演する、この貴重な機会をぜひ経験してみませんか？チャペルや奏楽を通じて見つかるものがあるかもしれません。新たなオルガニストとの出会いを心待ちにしています。



吉川瑛梨香 (教育学部4年生)

チャペルアワーは、私にとって、奉仕の喜びに満ちた時間です。多くのパイプ1本1本を空気が駆け抜ける多彩な音色は、実に美しく豊かに重なり合い、心に響き渡ります。

私たちチャペルオルガニストは、より良い奏楽ができるように、月2回のレッスンに加え年2回の研修会で、パイプオルガンやキリスト教音楽などについて幅広く学びます。また、スプリングコンサートははじめ秋の発表会やクリスマスコンサートは、学内のみならず一般の方々にも鑑賞していただくので、精神的にも技術的にもレベルアップできる有意義な機会です。もちろん、西宮上ヶ原キャンパス・西宮聖和キャンパス・神戸三田キャンパス、全てのオルガニスト同士の交流もあり、互いに励みになっています。私が所属する教育学部では、多くの必修科目や実習がありますが、学年を問わず支え合うことで両立させています。

関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”は「奉仕のための練達」と訳され、「隣人・社会・世界に仕えるため自らを鍛える」という関学生の在り方を示しています。チャペルオルガニストとしての活動は、まさしく、その体現と言えるでしょう。気づけば、神聖なチャペルでパイプオルガンに向かい、真摯に練習している自分がいます。

～心に愛を豊かに満たし 日ごとのわざにつかわたたまえ～ (讃美歌21-88)
を心に留めて、ぜひ共に関学生らしい道を歩みませんか。

お知らせ

♪学生による説明会とコンサート

西宮上ヶ原キャンパスでは、昼休みにランバス記念礼拝堂で学生による説明会とコンサートを行います。興味のある方はぜひお越し下さい。

説明会：4月17日(火)、19日(木)12:50～13:25

スプリングコンサート：4月18日(水)、20日(金)12:50～13:20

西宮聖和キャンパスと神戸三田キャンパスはチャペルアワー等で宗教主事から説明があります。

♪応募資格・条件

- ・ 大学の1年生か2年生。
- ・ 4年生まで継続し、その間レッスン(有料)を受けること。(留学等の長期不在は応相談)
- ・ 学部チャペルで奏楽の奉仕をすること。

♪募集要項・応募用紙の入手先

- ・ ホームページ QRコードは  関西学院大学ホームページからダウンロードできます。 教育・研究→宗教センター→オルガニスト募集 大学図書館
- ・ 電子メール QRコードは  organist@kwansai.ac.jp にあなたのキャンパス名を書いたメールを送信してください。返信で送ります(添付ファイルが受信可能なメールアドレスからお送りください)。
- ・ 事務室 宗教センター(吉岡記念館1階)、聖和キャンパス 事務室教育学部担当(1号館1階)、神戸三田キャンパス事務室(アカデミックコモンズ1階)に置いてあります。

♪応募用紙の提出方法

- ・ 電子メール organist@kwansai.ac.jp へて応募用紙を添付して送信してください。
- ・ FAX 応募用紙を宗教センターのFAX(0798-51-0922)に送信してください。
- ・ 事務室 応募用紙を上記の事務室のいずれかに提出してください。

♪応募期間

4月2日(月)～26日(木)の事務室開室時間

♪オーディション

日時：4月28日(土) 時間予約制(1人約10分間)
場所：吉岡記念館2階研修室1(西宮上ヶ原キャンパス)
*詳しくは「募集要項」をご参照ください。

♪指導者

太宰まり、能島亜未、坂倉朗子、西山聡子

♪レッスン費用

レッスン費は1年間あたり1年目90,200円(5月レッスン開始)、2年目以降98,400円(4月レッスン開始)となっています。支払い方法は、1年分一括支払いまたは4回の分割支払いのいずれかを選べます。

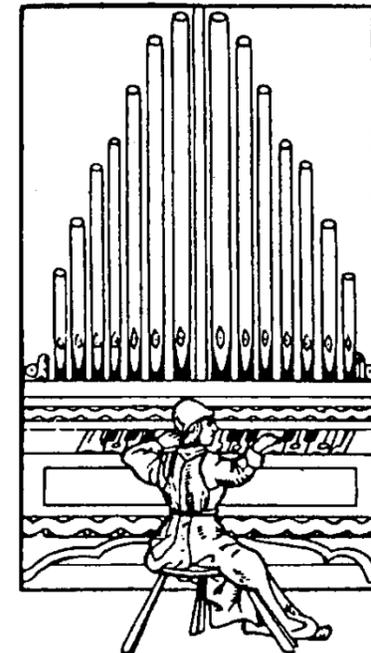
♪お問い合わせ・資料請求

関西学院宗教センター オルガニスト募集担当
電話：0798-54-6018、FAX：0798-51-0922
E-mail：organist@kwansai.ac.jp



2018年度 関西学院 チャペルオルガニストへの招き Chapel Organist

♪各学部チャペルアワーなどでオルガン奏楽
♪ランバス記念礼拝堂のパイプオルガンで個人レッスン



関西学院宗教センター
Kwansai Gakuin Christian Center

招きのことば

舟木 譲

(宗教総主事・経済学部教授)

関西学院は1889年、原田の森（現、神戸市の王子動物園・王子スタジアム）に、アメリカ南メソヂスト監督教会より派遣されたウォルター・ラッセル・ランバス宣教師によって創設されました。設立にあたって制定された関西学院憲法には、設立の目的として、キリスト教伝道者の養成ならびにキリスト教主義に基づく「知徳兼備の教育」という二つの柱が記されています。すなわち本学の教育は、単に高度な知識や技術を有するだけでなく、豊かな精神と人間性をも兼ね備えた人を育てる、いわゆる「全人教育」であるといえます。

このキリスト教主義教育の重要なものの一つが、チャペルアワーに実施されるプログラムです。各学部のチャペルやランバス記念礼拝堂そして中央講堂などで、授業期間中の月曜日から金曜日まで一時限目と二時限目の間の30分間を関西学院大学ではチャペルアワーとして守って来ました。ここで出会う人々、また体験する事柄を通して関西学院の本質とその意味をより深く学び、経験することになります。

チャペルオルガニストはこのチャペルアワーを支える重要な存在であり、関西学院のキリスト教主義教育をより豊かなものとするための貴重な働き手です。日頃の練習を通じて関西学院の精神を多くの人々に伝えるという点で、スクール・モットーである「Mastery for Service」を体現する存在でもあります。あなたもチャペルオルガニストとして、関西学院でしか経験の出来ない豊かな時を過ごしてみませんか。



チャペルオルガニストとは

舟木 譲

(宗教センター長)

関西学院は、創立当初よりキリスト教主義に基づく教育を行って来ました。そしてチャペルアワーはその教育のための重要な時間として創立当初は礼拝として守られていたものを受け継いで今日に至っています。現在、授業期間中の月曜日から金曜日の一時限目と二時限目の30分間、各学部、大学院で、また木曜日の17時50分から30分間大阪梅田キャンパスで実施されています。

チャペルアワーは、通常キリスト教の礼拝形式でプログラムが実施され、教職員・学生などによる聖書に基づいたメッセージとお祈りや学生音楽団体の演奏等が行われ、また出席者全員でキリスト教の賛美歌を歌います。チャペルオルガニストは、開始時に前奏、終了時に後奏、そして賛美歌を歌う時にその伴

奏を行います。すなわち、チャペルオルガニストは関西学院のキリスト教主義教育の一翼を担う大変重要な働きをしていただく貴重な存在です。

チャペルオルガニストとなって働いていただくには、年度初めに実施されるオーディションに合格することが必要で、合格後、専門の先生方からパイプオルガンのレッスンを受けていただくことになります。パイプオルガンの荘厳な響きは多くの人々に深い感動を与えますが、そのパイプオルガンを実際に演奏することができる貴重な機会が用意されているのです。

また、日頃の練習の成果は秋の発表会やその他の演奏などを通じて多くの方々に聴いていただくことになります。さらにチャペルアワーでのオルガン演奏に心癒されたとか、パイプオルガンの曲に力や希望が与えられた、という感想を寄せる学生も毎年多くいます。そのような豊かな働きを通じ、自らの成長とともに多くの人々に喜びを与えることが出来る存在、それがチャペルオルガニストです。



オルガンという楽器

太宰 まり

オルガンは礼拝を支えるものとして、キリスト教音楽になくはならないものとなっています。その歴史は、ピアノが登場するずっと前から始まります。紀元前3世紀、エジプトのアレキサンドリアで原形が考案されたこの楽器は、いわば笛の集合体とも言えるもので、固有の音色や音程をもったパイプを、一定の順序に従って並べ、ふいごによって風を送り、鍵盤で操作して鳴らします。私たちは、パイプが数十本、手鍵盤1段だけの小さな携帯用と言えるものから、数千本のパイプ、足鍵盤と数段の手鍵盤を持つ巨大な楽器まで、さまざまな形態のオルガンを見ることが出来ますが、それはつまり設置する場所、使用目的を考えながら、その時代の音楽や地域的な特色を反映して造られるものだからです。昔は人力で風を送っていましたが、今はもちろんモーターの送風装置になり、さらには、コンピューターの進歩に伴い、複雑な記憶装置を備える楽器も多くなっています。その改良の歴史は、オルガン音楽にも大いに影響を与え、素朴な中世の音楽を経て、17～18世紀にはさまざまな名器の登場とともに、バッハを頂点とするバロック時代のオルガン音楽黄金期を迎えました。さらに、ロマン派の時代には繊細なソロからダイナミックなフルオーケストラまで演奏出来るオルガンも作られ、楽器の女王としてふさわしい存在になりました。

この関西学院でも宝塚、西宮上ヶ原、神戸三田、西宮聖和キャンパスにパイプオルガンが置かれ、数多くの礼拝や式典に用いられています。初等部は日本の草苺オルガン、上ヶ原ランバス記念礼拝堂はドイツのオーバーリンガー、神戸三田ランバス記念礼拝堂はカナダのカサバンフレール、理工学部チャペルは

ヤマハ、西宮聖和メアリー・イザベラ・ランバスチャペルはドイツのポッシュ。それぞれの工房によって造られた楽器が個性を競っていますが、さらに2014年には創立125周年を記念して新しい中央講堂にオーストリアのリーガー社によるシンフォニックな楽器が設置されました。各学部チャペルの電子オルガンも加えて、これらの楽器たちは、その豊かな音色で私たちの賛美の声を支え導いているのです。

レッスンの実際

太宰 まり

オーディションに合格した人たちは、1年後にチャペル奏楽の奉仕を始められるように、オルガンの基礎から学び始めます。月2回のレッスンを受けて、実際の運指法や足鍵盤の使い方、楽器の仕組みなどを勉強し、同じ鍵盤楽器ではありませんがピアノとはずいぶんちがうことに少しずつ慣れていきます。足鍵盤は初めてという人が殆どですが、それぞれに新しいことへの挑戦を楽しく経験します。

チャペルでのオルガニストは多くの人々の賛美の歌声の支えとならねばなりません。そのためにどのように賛美歌を弾けばよいのか、また、前奏・後奏はどうしたらよいかなど、いろいろな角度から奏楽者としての研鑽も積み、その技術に支えられて大きな誇りを持って奉仕に当たります。

オルガンは教会の歴史の中で成長してきた楽器です。バッハは生涯の大半を教会オルガニストとして過ごし、その作品の多くは実際の礼拝のために作られたものです。他にもメンデルスゾーン、モーツァルト、メシアンなど私たちの知っている多くの作曲家がオルガニストとしての側面を持っていました。レッスンでは、そのような人たちの作品も含め、バロックから現代にいたる様々な音楽の魅力に触れながら、曲をひとつずつ仕上げていく楽しみや、演奏することのすばらしさを体験していきます。

オルガンの魅力の虜となったレッスン生の何人かは、ついには本職のオルガニストやオルガン製作者となりました。そうでない人たちも、それぞれの生き方の中で、やはり学生時代の思い出をかけがえのないものとしています。今年もチャペルオルガニストたちは、練達の中に見つけた音楽の喜びを、チャペルの奉仕の場へと還元し、よりよき奏楽者としての働きが出来るように祈りつつ励んでいます。

